

山 行 報 告 書

山行報告者：加藤

山域・山名： 甲斐駒ヶ岳（黒戸尾根～北沢峠）（2965.5m）		（山梨県北杜市）
入山日又は期間：平成30年10月22日(月) ～23日(火) （1泊2日）		
プラン担当者		
参 加 者	加藤	
天候 両日共に快晴、微風		
10月22日 (月)	5:10 南浦和駅（武蔵野線）⇒西国分寺で中央線に乗換え⇒6:14 高尾駅で 松本行に乗換え⇒8:28 小淵沢駅着、乗合タクシー乗車⇒ 9:00 竹宇駒ヶ岳神社着、朝食 9:30 登山開始⇒11:30 笹ノ平分岐⇒14:10 五合目⇒15:15 七丈小屋に到着、 小屋泊	
10月23日 (火)	5:00 起床、朝食⇒6:30 小屋発⇒8:00 甲斐駒山頂着⇒9:00 駒津峰⇒11:00 北沢峠着 11:15 広河原行のバスに乗車、芦安で途中下車、風呂・昼食⇒17:00 甲府駅着 17:25 新宿行特急乗車、帰路につく	
装 備 と 食 糧	個人装備： ヘッドランプ、雨具、防寒衣、コンパス、地図、スパッツ、グローブ、チェーン スパイク、ストック、ヘルメット 個人食： 22日の朝食、行動食2日分、予備の食糧、水、湯 次ページへ続く	

先月の「初」甲斐駒があまりにも天気が悪かったのが残念で、積雪の前の山からの景色を見たいと思い再度、黒戸から登った。幸い、今回の山行は山行日の前後合わせての好天続き、風も微風、湿度は低く空気はひんやり、日差しは燦々、という恩恵に与ることができた。

今回は小淵沢からの乗り合いタクシーと七丈小屋泊のセットで予約し、最初から小屋泊の計画だったので、荷物も気持ちも随分軽かった。

その分、歩く（よじ登る）ことと山の景色に集中することができた。

黒戸の中腹辺りまでは紅葉の真っ盛りで、火がつきそうな真っ赤なモミジと陽を透かして金色に光るブナの葉が、静寂に満ちた山に無言の咆哮というのか、もう光と色彩の大洪水に飲まれて、何度も何度もその場に立ち尽くしてしまった。

時折数人続けて下山してきたが、すぐまた辺りは静まり返って、突然呆けた顔で景色に見入ってはまた登りを続けた。

そんなゆっくりの登りは、普段ジタバタしながら生きている心身に、本来の自分のペースがどれほどスローで、それがどんなに心地よいかを思い出させてくれた。

五合目を過ぎたあたりから気温は 10℃をきっていたが、やはり風はほとんどなく、快調に小屋まで登って行った。テント泊の男性がこのあたりから前後し、聞くとザックは 20 キロはあるそうだ。20 キロで黒戸かぁ…すごいなあ…とまじまじと巨大なザックに見入る。ほどなくして小屋に着き、「管理人さん」のさわやかな笑顔に瞬殺で疲れも吹っ飛び、山頂の状況を聞きながら宿泊の手続きを済ませる。

雪は若干あるが、チェーンスパイクがあれば安心とのこと。

夕食まで二階の布団で横になって隣の布団の女性と色々話をした。

甲斐駒が好きで好きでついに麓に家を買って移住し、今日は畑でとれた芋を担いで上がってきたという。

夕食時はこの芋が美味しい大学芋になって運ばれてきた。ちょっと辛めのカレーもとてもおいしかった。夕食後は客もスタッフも山談議に大盛り上がりで、前の管理人だった方と先ほどの女性とウィスキーを（これも女性が担いで持ってきた）頂きながら私も話の輪に加わらせて頂いた。夢のような時間だった。

この日の小屋の思い出はずっと大切にしたいと思う。夜は別の女性のイビキでほとんど眠れなかったが…。

翌朝も快晴。朝食後山頂目指して出発。思ったほど雪はなかったが、岩と岩の間や登山道にはところどころ凍結した積雪があり、足の置き場をよく見て登り進める。

チェーンスパイクは結局使わなかった。しばらく景色を楽しんでから下山。駒津峰、双児山と高度を落としていき、無事バス時間 15 分前に北沢峠に到着した。

帰りの南アルプス林道は紅葉真っ盛りだった。観光客も大勢バスに乗っており、また運転手さんも絶景スポットで停車サービス満点、みんなしてあっち向きこっち向きパシャパシャやりはじめるものだから、気づいたらこちらもつられて写真を撮りまくっていた。紅葉に始まり、紅葉に終わった山行だった。

また、今回強く思ったのは、甲斐駒はあれだけの高度と険しさをもった山でありながら、どこか里山のような親しみがあって、人の生活にとっても近い山だな、と。

通いたい山がまた一つ増えた。